

交流拠点における必要な施設内容・規模・ゾーニング①

ホール機能

◆ホール舞台 450m²程度

- ・間口15m 幅30m 奥行15m
※間口は現状18mを15mへ
(800~1,000席の場合、通常11m~15m)
幅は間口の2倍、奥行きは間口の1.2倍

◆ホール客席 800m²程度

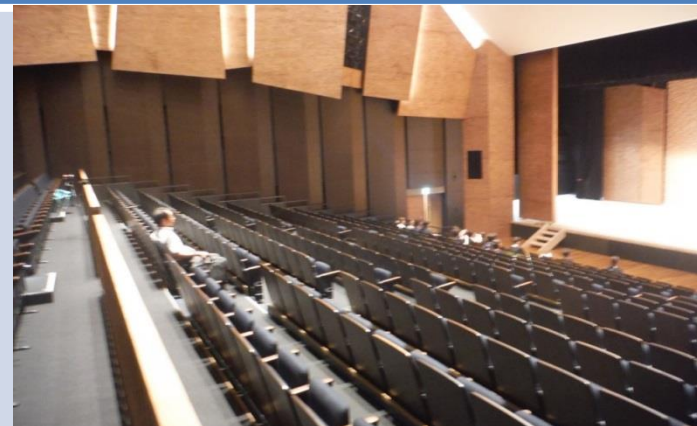
- ・1階 450席程度(可動式)
- ・2階 350席程度(固定式)
※共有スペースをなるべくたくさん確保するよう考慮

◆楽屋、リハーサル室 170m²程度

※「多目的ホールの設計資料」(日本建築学会)参照

800席以下のホール:楽屋 67m² リハーサル室 50~100m²

※楽屋及びリハーサル室をトータルとして考える。楽屋が狭い、リハーサル室がないという要望を受け、既存のスペース以上を確保



交流拠点における必要な施設内容・ 規模・ゾーニング②

図書館機能

全体で1,600m²程度

- ◆開架スペース 10万冊開架、児童図書コーナー、自衛隊図書コーナー等
- ◆書庫スペース 5万冊閉架
- ◆荷捌き室 小中学校への配送作業等を行う部屋
- ◆事務室 館長・市史編纂員、司書、応接スペース等
- ◆文化財倉庫 空調管理され、郷土資料等を長期保管する収蔵庫
- ◆閲覧室兼学習室
- ◆ボランティア室 図書整理等を行うボランティアが利用する部屋
- ◆その他(トイレ等)

交流拠点における必要な施設内容・ 規模・ゾーニング③

会議室機能

全体で**600m²**程度

- ◆既存の大会議室、中央公民館、第1会議室、展示室、和室のスペースを確保
 - ◆大会議室(241m²)、中会議室(168m²)、小会議室(88m²)、和室(90m²)とする。
 - ◆大会議室、中会議室には可動式間仕切りを設置
会議室にそれぞれ収納スペース(可動式間仕切り部分も含む)を検討
 - ◆大中小会議室に美術展示機能を確保
- ※大会議室は、書道展、舞踊発表会など100人規模のスペース
※中会議室は、陶芸作品展など50~80人規模のスペース
※小会議室は、各種会議など30人規模のスペース
※和室は、茶会など40人規模のスペース

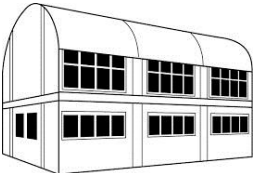

交流拠点における必要な施設内容・ 規模・ゾーニング④

高齢者福祉機能

施設管理を担う団体職員4人と、高齢者福祉関係者8人が共有して入居する
スペースとして**約180m²**を確保する。

- ◆事務室 85m²(総務省 地方債庁舎算定基準:12人分を換算)
※課長級3人、係長級3人、一般職6人で換算
- ◆倉庫 11m²(同上 :事務室面積の13%)
- ◆会議室等 70m²(同上 :7m²×10人)
※福祉関係者によるケース会議等を想定
- ◆相談室 16m²(市保健相談センター相談室と同程度 :8m²×2室)

交流拠点における必要な施設内容・規模・ゾーニング(前回協議事項)

体育館	(現状等)	<ul style="list-style-type: none"> ・幸神体育館、渡体育館という二つの地区体育館が存在 ・地区体育館の利用実績、特に夜間の利用はほぼ100% ・市民体育館、第2市民体育館が市の中心部に存在 	
	(規模等)	<ul style="list-style-type: none"> ・大会等は市民体育館、第2市民体育館、今回整備する体育館は地区体育館が妥当 <p>渡体育館程度: 785㎡(防災備蓄倉庫 約30㎡を確保する。)</p>	
	(活用内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・平時は、室内競技での交流(自衛隊)の場 ・災害時は避難施設や支援物資の保管などに活用 	
広場 屋根付き	(規模等)	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地などの事例も参考、50m × 20m程度が妥当 <p>※参考例 フットサル、ハンドボール 20m × 40m</p>	
	(活動内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・平時は、グランドゴルフ、フットサル、陸上及び野球の雨天練習場など ・災害時は、避難施設や資機材の保管などに活用 	

★ゾーニングについて

- ・竜ヶ山球場内の美保通信所側のスペースが適地
(大型車両の通行、近隣住民への配慮という二つ観点)